



Title	小学校水泳授業におけるスノーケリング授業実践 ~豊かな沖縄の海を, 沖縄の子ども達に安全に体験させたい! ~
Author(s)	赤嶺, 智郎; 飯田, こずえ; 小島, 哲夫
Citation	琉球大学教育学部教育実践総合センター紀要(15): 45-51
Issue Date	2008-03
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/7847
Rights	



小学校水泳授業におけるスノーケリング授業実践

～豊かな沖縄の海を、沖縄の子ども達に安全に体験させたい！～

赤嶺智郎* 飯田こずえ* 小島哲夫*

Teaching Practice of Snorkeling in Elementary School Swimming class

AKAMINE Tomoo IIDA Kozue KOZIMA Tetuo

I 主題設定の理由

本校児童が交流先の北海道旭川小学校へ行く場合、スキーをおこなう。その時、旭川の児童は、沖縄の子にマンツーマンで付いてくれ、ウェアの付け方や、スキー靴のはき方等教えてくれる。また、スキーの滑り方も手取り足取り教えてくれる。スキーというスポーツが雪の北海道では生活の一部として行われているのを実感した。

さて、私たち沖縄のことを考えてみると、夏に旭川から北海道の子が来たとき、私たち沖縄の子、そして私たち大人は、何をしてあげられるのだろうか。ほとんど何も伝えられない。悲しいけれど、それが沖縄のマリンスポーツの実情である。

世界的にみても美しいと言われている沖縄の海。ダイビング雑誌などでも毎月沖縄が特集されるほどの海。また、多くの観光客が沖縄の海を目当てに訪れている。しかし、沖縄に住んでいる子ども達はもちろん、私たち大人も、海と言えば、人工のビーチしか知らず、珊瑚や熱帯魚を自分の目で見ることなくすごしている。

また、沖縄では年間に何人もが、十分に技能・知識を持たないまま、スノーケリングを自己流で行ったことが原因で、水難事故や尊い命を失っている現状がある。現に、平成15～17年の間に45件のスノーケリング事故が発生し、32名もの方が命を落としている。今年に入ってから県内の小学5年生がスノーケリング中になくなるという痛ましい事故も発生している。

これらのことから、小学校の高学年段階で、スノーケリング技能とその安全な行い方を身につけることは、沖縄のすばらしい海を身近に親しむようになることが期待され、同時に、自分たちで海に行く時、器具の正しい使い方や安全な海への接し方が分かり、海での安全への配慮が自分でコントロールすることも期待される。

以上のような理由から、小学校教育の中でスノーケリング授業を実践していくことは、周りを海に囲まれた本県では意義のあることだと考える。

しかし、学校現場には、子ども達に十分な技能を学ばせるため指導者もカリキュラムも

*琉球大学教育学部附属小学校

なく、実践のための用具もないのが実情である。

県内には、多くのダイビングショップがあり、前述のように多くの観光客や高校の修学旅行生等にダイビングやスノーケリングを指導している。そのダイビングショップインストラクターの方々と連携を図り、小学校教員とのTT授業を行うことで、安全で確かなスノーケリング技能を、子ども達に身につけさせることができると考える。

そこで、本研究では小学校の高学年水泳において、ダイビングインストラクターと連携しながらスノーケリング技能とその安全に配慮する態度を身につける授業カリキュラムを開発するとともにその教育効果を研究していく。

II 研究の仮説

高学年体育水泳授業にダイビングインストラクターと教員がTTでスノーケリングを取り入れることで、以下のような効果が得られるであろう。

<技能面>

- ・スノーケリング器具の正しい装着方法を身につけることができる。
- ・マスク、スノーケル、フィンをつけて美しく、安全に泳ぐ技能を体得することができる。

<心情、態度面>

- ・シュノーケリング（マリンスポーツ）の楽しさを知り、それを生涯的に通して行おうとする意欲や態度を高めることができる。
- ・安全を考えてマリンスポーツを行おうとする態度を育てることができる。
- ・沖縄の自然を愛する心を育てることができる。

<社会面>

- ・沖縄県における、水泳指導の目的の多様化。
- ・地域の特色を生かした、カリキュラムを開発。
- ・地域の人材を活用。

III 研究の方法

(1) 授業者

- ・飯田こずえ
（琉球大学教育学部附属小学校6年担任）
- ・ダイビングインストラクター5人
＜（有）コーラルカームスタッフ＞

(2) 対象者

- ・琉大部附属小学校 6年3組39名
（男子20名、女子19名）

(3) 教師とダイビングインストラクターの役割

教員は主に児童の情意面・態度面への働きかけを行う。特に、水辺や海での安全面の注意はしっかりと行うよう心がけた。

それに対し、ダイビングインストラクターはスノーケリング技能の伝達を主に行うとともに、体験からの海の素晴らしさや楽しさも伝えてもらうようお願いした。

(4) 指導計画

- ・プールにて8時間（技能習得）
- ・海洋体験（2時間）：ダイビングポイント

(5) 安全面への配慮

<プール>

- ・プールの授業で、スノーケリングの基礎技能と安全の心得を身につけさせる
- ・授業は、担任とダイビング指導者がTT（チームティーチング）で行う。技能的な面は、ダイビング指導者が行い、態度面やマナー面は担任が中心となって指導する。特に安全面については、どちらも積極的に指導していく。
- ・器具は、ダイビング業者の器具を用い、正しい装着の仕方学ぶ。
- ・器具の正しい使い方やスノーケリング技能と並行して、随時海の怖さや、安全に

楽しむための心得も指導する。

<海洋実習>

- ・授業は、担任とダイビング指導者がTT (チームティーチング)で行う。技能的な面は、ダイビング指導者が行い、態度面やマナー面は担任が中心となって指導する。
- ・人数を制限し海に入る<ダイビング指導者が安全に見られる人数とする：1人に8人>。
- ・フロートなどを準備し、場所を制限して行う。
- ・海にはいるときは、全員ウェットスーツを着用し、ブーツ等も使用し、できるだけ肌をださないで海に入る。
- ・泳げる泳げないに関係なく、海にはいるときはライフジャケットを着用する。
- ・海に入らないで待っている児童は、絶対海に入らないよう指導し、大人の監視のもと、海辺の生き物を観察したり、採取したりする。

(6) 児童の変容のみとり

- ・授業開始前・後に以下項目を調査し、その変容をみる (t検定：対応のある)。
- ・泳力調査 (好きな泳ぎ方で、できるだけ

長く泳ぐ)



- ・スノーケリング、マリンスポーツ、海に関する意識調査：「まったくあてはまらない」(1点)から「とてもよくあてはまる」(4点)、の4件法。







また、児童の感想を毎時間取るとともに、ダイビングインストラクターの感想や意見も聞き取る。

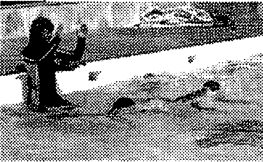

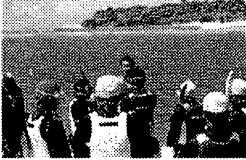
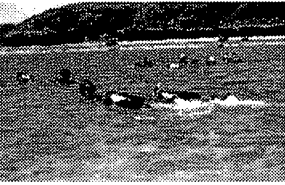
表1 スノーケリングマリンスポーツに関する意識調査項目

スノーケリングアンケート	
授業前	月 日 年 組 名前()
1,	これまで、海でスノーケリングをしたことがあります。
2,	これまで、自分の目で(水中眼鏡)で、サンゴや魚を見たことがあります。
3,	海で泳ぐのは好きです。
4,	海でフィンをつけて、泳いだことがあります。
5,	スノーケルの正しい使い方が、分かります
6,	フィンの正しい使い方が分かります。
7,	水中眼鏡(マスク)の正しい使い方が分かります。
8,	スノーケルをして泳ぐのは、こわい感じがします。
9,	フィンをつけて泳ぐのはこわい感じがします。
10,	水中眼鏡(マスク)をつけて泳ぐのはこわい感じがします。
11,	わたしは、スノーケリングが上手にできます。
12,	海で泳ぐときには、よく安全のことを考えています。
13,	海の怖さを知っています。
14,	沖縄の海のすばらしさを知っています。
15,	沖縄の海が好きです。
16,	マリンスポーツに興味があります。
17,	大人になったら、マリンスポーツをやりたいです。
18,	海の珊瑚や熱帯魚などの生き物に興味があります
19,	プロのダイビングのインストラクターが、授業をしてくれることは、とても良いと思う
20,	あなたは、今続けて何メートルぐらい、泳ぐことができますか

IV 研究の内容

日時	主な内容		児童の様子・感想
1, 5/24	<ul style="list-style-type: none"> ・マスクの装着, 使い方 ・マスククリアー ・スノーケルの正しい装着, 使い方 	<p>マスク：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・髪の毛を挟まない ・唾でくもり止めをする <p>スノーケル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あ、い、う」の口でくわえる ・一気に吸い込まないで、お茶を啜るように吸う 	  <p>写真で海の様子を見る子達</p> <p>「顔をつけて泳いだときは顔を上げなくても息ができたので泳ぎやすかった」</p>
	初めてのスノーケリング	「あ、い、う～」	

2, 5/29	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフジャケット着用の泳ぎ方を覚える ・フィンをはいて泳ぐ 	<p>ライフジャケット： 身体にフィットしたモノを使い、股下のひももちゃんと止める（ジャケットがあがるのを防ぐ） フィン： 2人1組でフィンをはく。ゆるめてはいて、横を引っ張ってきつくする。歩くのは横歩き。</p>	<p>「おおー結構進むな。私はフィンをつけてもそんなに速くは進まないと思っていましたが、すごい速さで進んだ。」</p>
3, 5/30	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェットスーツを着よう ・3点セットで泳ぐ 	<p>ウェットスーツの利点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浮力が得られる ・保温性がある ・毒のある生物や珊瑚から肌を守る。 	<p>「4回目はゲーム式でチーム対抗でやった。自分の番緊張したけれど泳げた。前は少し怖い感覚があったけれど、ようやく凄く楽しいという気分になれた」</p>
4, 6/4	<ul style="list-style-type: none"> ・スノーケルスイムを身につける <p><3点セットでゲーム></p> <ul style="list-style-type: none"> ●水中眼鏡 ●スノーケル ●フィン <p><ウェットスーツ></p>	 <p>楽しみながら、スノーケリング技能を身につける</p> <p>・スノーケリングリレー ・スノーケリングシンクロ</p>	<p>「4回目はゲーム式でチーム対抗でやった。自分の番緊張したけれど泳げた。前は少し怖い感覚があったけれど、ようやく凄く楽しいという気分になれた」</p>
5, 6/6	<ul style="list-style-type: none"> ・スノーケルスイムを身につける <p><3点セットでゲーム></p> <p><わざと、スノーケルに水を入れて、クリア練習>：スノーケルクリア</p>	 <p>・輪くぐり リレー ・おもり拾いゲーム</p>	<p>「前までの復習してから、リレーの練習をした。僕もみんなもウェットスーツを着るのもフィンをはくのも早くなった。」</p>
6, 6/11	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘッドファースト（頭から垂直に潜る練習） ・スノーケルクリア（もぐったあとは、スノーケルから水を出し、呼吸を継続） 	 <p>ヘッドファースト 潜る前に、自分のおへそをみるような感じで頭から勢いをつけて水に潜る</p> <p>完全に水に潜って、スノーケルクリアの練習</p>	<p>「潜る授業に入った。お手本では息を止めるのが大変そうだったけど、短い距離ならできた。始めやった時は潜れなかったけれどどんどんできるようになった。」</p>
7, 8 6/13	<ul style="list-style-type: none"> ・ドルフィンスイム <p>水着にてドルフィンスイムに挑戦（ゲーム化）</p>	 <p>ドルフィンスイム 水中のイルカのように、水の中で自由にきれいに潜ったり泳いだりすること</p> <p>インストラクターの股の間を潜れ</p>	<p>「前はうまく潜れなくて心配だったけれど、Yさんのまねをするとなんと、プールの底に体が着くくらい潜れちゃった。やったぁ嬉しい！」</p>

9, 6/20	<ul style="list-style-type: none"> ・ドルフィンスイム ・スノーケリング認定テスト ・認定式 <p><手作り免許証></p>			<p>「スノーケリング認定証、北谷への切符をかけテストがあった。始めは緊張していたけれど潜ってみるといつも通り気持ちいい。海だー!」</p>
10, 6/27 海洋実習<奥武島>			 <p>「魚だー、珊瑚だー」</p>	<p>グループで、ゆっくりと海中散策。インストラクターの許可で、ライフジャケットを外し海中に潜る体験。</p> <p>「練習のおかげで海でもフィンが上手にできたので、珊瑚や魚をみる余裕が持て、綺麗な魚や、青い魚も見れました。」</p>

V 結果と考察

1 スノーケリング・マリンスポーツ、海・に関する意識調査

上記調査の授業前と授業後の結果を「対応するt検定」にて統計処理を行い、危険度1%水準で有意な項目より、今回の研究を考察してみた。

(1) 技能面の認識変容について

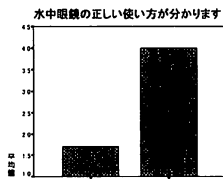


図1 水中眼鏡の使い方の変化

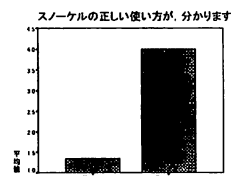


図2 スノーケルの使い方の変化

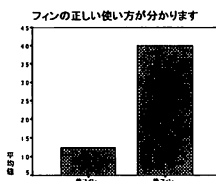


図3 フィンの使い方変化

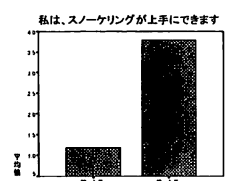


図4 スノーケルの上手さの変化

図1～図3は水中眼鏡、スノーケル、フィンの使い方に対する児童の意識の変容を表しており、授業前はほとんどの子が正しい使い方が分からなかったのに対し、授業後は3つの器具とも全員が正しい使い方が分かる(4点)となった。子ども達の技能の伸びは凄く、

日頃、多くの大人にダイビングの講習をしているインストラクターも、子ども達の技能の向上速度には驚いていた。

また、図4はスノーケリングに対する自信を表しており、授業前多くの子が自信がなかったのが、授業後ほとんどの子が上手にできるという自信を得た。

以上のことから、スノーケリングの授業をプールでじっくりと、インストラクターが少人数で行うことにより、子ども達にスノーケリング技能をしっかりと身に付けさせることができ、そのうえスノーケリング認定試験や実際に海で経験することにより、スノーケリングについての自信をつけさせることができたと考える。

(2) 心情面・態度面の変容について

①スノーケリングの怖さと海の安全意識の変容

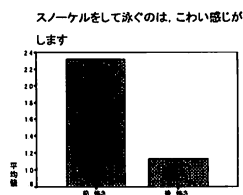


図5 スノーケルの怖さの変容

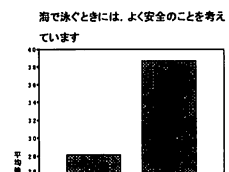


図6 泳ぐときの安全について

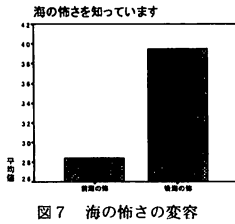


図7 海の怖さの変容

図5はスノーケリングの怖さの変容を表しており、今回の授業で、ほとんどの子がスノーケリングに対して怖さを持たなくなった

ことが分かる。また、図6は「海で泳ぐときに安全に気をつけるか」、図7は「海の怖さを知っているかという」項目で、どちらも有意に上昇した。

このことから、今回の授業で、子ども達のスノーケリングに対する恐怖心は低くすることができ、逆に安全に海にはいることや、海の怖さは伝えることができたと考えられる。これは、学級担任が子ども達に海の安全のことを十分に話したり、今年の夏は実際にスノーケリングの事故が多く、何人もの方が事故で亡くなり、そのことを子ども達が、授業を通し身近に捉えた結果だと考える。

②海の素晴らしさや生き物に対する意識の変容

図8は「沖縄の海の素晴らしさを知っているか」図9は「珊瑚や熱帯魚等、海の生き物への興味」の結果である。どちらも授業後は有意に上昇した。

実際に沖縄の豊かな海でスノーケリングを行い、自分の目で珊瑚・魚を観たことが上記のような結果につながったと思われる。海洋実習ではあちらこちらから、魚や珊瑚を見て、子ども達の歓声があがっていた。

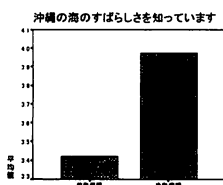


図8 沖縄の海の素晴らしさ

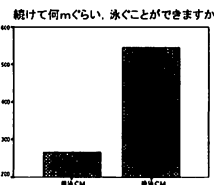


図9 海の生物への興味

2 泳力、水慣れへの効果

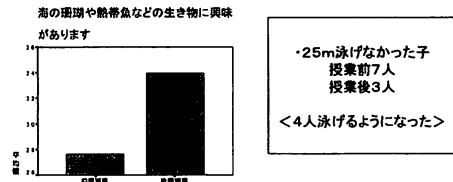


図10 泳力の変化

スノーケリングを行うことで、子ども達の泳力にどのような影響を及ぼすかを、授業前後で比べてみた。その結果、授業前平均250mだったのが、授業後は550mと飛躍的に泳げる距離が伸びた。また、25m以上泳げなかった子が7人いたが、そのうち4人が25m以上泳げるようになった。4人のうち2人は5m未満の水慣れもできていない子であった。

スノーケリングを行うことで泳力が伸びる理由は、泳ぐときの「脱力」に関係すると思われる。顔を上げなくてもスノーケルによって「呼吸」できることで、ゆったりと泳ぐことができ、その結果として体の力を抜いて泳ぐ「脱力」の技能を獲得し、スノーケルをつけない場合も「脱力」→「浮く」→「呼吸しやすい」→「疲れない」という良い効果を生み、泳げる距離を長くするという結果に結びついたと考えられる。

また、スノーケリングで呼吸して泳げることは、泳ぎが苦手な子にも良い効果を生んだ。それは、泳げない子に共通する「水への恐怖感」がスノーケリングをすることで薄れ、「水慣れ」につながったと思われる。授業の中でも全く泳げなかった子は、最初の頃は体を硬くし、水への恐怖心がまわりからも見てとれた。それが、インストラクターが手を取って指導したり、周りの友達と繰り返し練習することで、徐々に水への抵抗を減らし、いろいろな技に挑戦していった。

また、スノーケリングで呼吸する際にも、普通の水泳のように水と空気を区別しながら吸う技能が必要であり、この技能を獲得することで、普通の泳法の呼吸法獲得の際にも汎

化したと考えられる。

表2 泳げなかった子の様子（日記より）

「私は去年まで泳げないとあきらめていたけど、この授業をやって、泳ぐのってこんなに楽しいんだなあーと思った」（2回目の授業後）

以上のように、スノーケリングは泳力の獲得へも良い影響を及ぼすことが示唆された。

VI まとめ

以上のように高学年水泳授業にインストラクターと教師がTT授業でスノーケリングを行うためのカリキュラムを開発し行うことで、スノーケリング技能や海の安全意識を獲得さ

せ、海や生き物に対する認識を高め、泳力にも良い影響があることが示唆された。

しかし、用具やインストラクターとの連携等今後クリアしていかなければならない課題もある。けれど、今夏に海に出て珊瑚や魚を観た時の子ども達の歓声や笑顔を目の当たりにし、沖縄県内にこの実践を広めたいという思いはさらに強くなった。今後も「豊かな沖縄の海を、沖縄の子ども達に」の想いを元に継続していきたい。

※この実践に際しスノーケリングに対する技能的な協力をダイビングショップ（有）コーラルカームに技能的な協力をいただきました。